

執筆者紹介（執筆順）

片山 隆裕（かたやま・たかひろ）

本学文学部（現国際文化学部）国際文化学科に1992年4月に着任し、助教授を経て、1997年4月に教授。学生主任、学科主任、博物館学芸員課程主任、国際文化学部長、大学院国際文化研究科長などを務め、現在、大学博物館長。

尹 芝恵（ゆん・じへ）

2007年4月、西南学院大学国際文化学部講師に着任。2009年4月より同大学国際文化学部准教授。言語教育センター主任、宗教主任を務め、現在、博物館学芸員課程主任。専門は、美術史、日韓文化交流史。

新郷 英弘（しんごう・ひでひろ）

西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程を単位取得退学。博士（国際文化）。2001年より芦屋釜の里学芸員として勤務。現在、芦屋釜の里及び芦屋町歴史民俗資料館の館長。

迫田 ひなの（さこだ・ひなの）

2019年3月、西南学院大学国際文化学部を卒業し、2021年3月、西南学院大学大学院国際文化研究科博士前期課程を修了。2023年4月より対馬博物館学芸員として勤務。

白水 達也（しらみず・たつや）

株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所 九州事務所長代理。大学進学で県外へ出るまで福岡市で育つ。金沢工業大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程修了後、2014年4月に一粒社ヴォーリズ建築事務所へ入社、2024年4月より現職。

後藤 新治（ごとう・しんじ）

九州大学工学部卒業後、同大文学部美学美術史専攻研究生。1975年北九州市立美術館学芸員、1988年本学文学部（現国際文化学部）講師、1999年教授、2020年定年退職。博物館学芸員課程主任、学科主任、図書館長、入試センター長、博物館長。西南学院大学名誉教授。

伊藤 彰浩 (いとう・あきひろ)

愛知教育大学卒業後、広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了。博士(教育学)。2008年より西南学院大学文学部教授。2017年より文学部長、初代外国語学部長、大学院学務部長を歴任。現在、外国語学部教授、広島大学高等教育研究開発センター客員研究員、大学基準協会評価委員。

安部 健一 (あべ・けんいち)

1980年4月より西南学院高等学校国語科教諭として着任。その後、組主任、学年主任を経て、2020年3月に定年退職し、2023年3月まで特別常勤講師。

原 健治郎 (はら・けんじろう)

1986年九州大学理学部数学科卒業後、西南学院高等学校に数学科教諭として着任。1996年より中高一貫により中学校・高等学校所属となる。2020年より高等学校教頭。

浦田 英範 (うらた・ひでのり)

2017年人間科学部心理学科に教授として着任。2018年大学院人間科学研究科臨床心理学専攻教授、2019年大学院人間科学研究科臨床心理学専攻主任を2年間務める。現在2024年から西南学院大学臨床心理センター長を兼務。

井上 康市 (いのうえ・こういち)

1970年、本学商学部商学科を卒業。同年東京海上火災保険(株)入社、2002年定年退職。同年首都経済貿易大学(北京)、続いて北京中医薬大学に留学し中国医学を学ぶ。2005年帰国。2008年本学ESS同窓会顧問。

原 耕作 (はら・こうさく)

在学中は、テニス部に所属し、主将として活躍。1983年3月に本学商学部商学科を卒業し、同年4月に西南学院事務局専任職員、2022年4月からは嘱託職員として勤務し、2025年3月退職。

宮川 由衣 (みやかわ・ゆい)

西南学院大学大学院国際文化研究科国際文化専攻修士課程修了。2024年9月まで、西南学院史資料センターアーキビスト・学芸員。現在、西南学院大学非常勤講師。

西南学院アーカイヴズに関する内規

2022年7月20日
制 定

第1条 西南学院史資料センター（以下「同センター」という。）は、西南学院アーカイヴズ（以下「アーカイヴズ」という。）を、原則として年1回刊行する。

第2条 アーカイヴズの編集方針は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 西南学院の建学の精神を明らかにするために、キリスト教主義学校としての本学院の歴史を記録する。
- (2) 西南学院の歴史及び学院関係者の事績を調査し、公表するとともに、将来の年史に向けて積み重ねを行う。

第3条 アーカイヴズの編集は、西南学院アーカイヴズ編集委員会（以下「編集委員会」という。）がこれにあたる。

- 2 編集委員会は、同センター運営委員長が委嘱する若干名の者をもって構成する。
- 3 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 編集委員会は、アーカイヴズに関する企画、立案及び編集作業を行う。
- 5 その他、アーカイヴズの編集に関する事項を所管する。
- 6 編集委員会は、アーカイヴズの企画及び立案した内容について同センター運営委員会の了承を得ることとする。

第4条 アーカイヴズの執筆者は、編集委員会が執筆を依頼、又は承認した者とする。

第5条 原稿は、原則として横書きとし、本文20,000字までを基準とする。ただし、これを超えるものは、あらかじめ編集委員会の同意を得るものとする。

- (1) 執筆者による校正は、原則として二校までとする。
- (2) 執筆者には、掲載誌を5部謹呈するものとし、抜き刷りは原則として行わない。ただし、執筆者の申出がある場合は、執筆者の実費負担にて抜き刷りを印刷することができる。
- (3) 執筆者は、アーカイヴズに掲載された原稿について、西南学院大学のホーム

ページ等で公開されることをあらかじめ承諾するものとする。

- (4) 上記以外の問題及び原稿の執筆、校正にあたって問題が生じた場合は、西南学院史資料センター運営委員長が決定するものとする。

第6条 編集委員会が執筆を依頼した者に対しては、次に掲げる基準に基づき原則として原稿料を支給する。

- (1) 原稿料は1ページ37文字で33行を基本とし1,200円で算出する。
- (2) 写真、挿絵及び図表は原稿料に含める。ただし、上限を超える場合は原稿料の対象外とする。
- (3) 1ページに満たないものについては、2分の1以上は1ページとして扱い、2分の1未満のものは0.5として扱う。
- (4) 原稿料は、17,000円を上限とする。
- (5) 投稿原稿には、原稿料を支給しない。

第7条 原稿作成にあたっての要領は、別に定める。

第8条 この内規に関する事務は、総合企画部社会連携課の所管とする。

第9条 この内規の改廃は、西南学院史資料センター運営委員会が行う。

附 則

この内規は、2022年7月20日から施行する。

原稿執筆要領

1. 文体は、「である」体で統一する。
2. 年号の表記は原則として西暦とし、執筆者の意向や原稿内容の特徴等、必要に応じて和暦の併用を可とする。

例) 令和5年1月1日→2023年1月1日、または2023(令和5)年1月1日

3. 資料の引用は、原則として原文に忠実であることとする。
4. 執筆者の肩書は、巻末の執筆者紹介でまとめて掲載する。
5. 写真を提出する場合は、説明文(キャプション)を合わせて提出する。
6. 外国人名の表記は①または②のいずれかとし、①の場合は初出で英語表記によるフルネームを記載する。

① C. K. ドージャー (Charles Kelsey Dozier)

(アルファベットをピリオドでつなぐ。初出の場合は、フルネームを英語表記する。)

② チャールズ・ケルシイ・ドージャー (中点でつなぐ)

③ チャールズ K. ドージャー (1文字分スペースを空けてつなぐ)

7. 引用する場合は、次のとおりとする。
引用する場合は、著者名(翻訳者名)『著書』出版社、出版年、引用ページの順とする。
8. 脚注の表記は各ページの下部に記載することとする。
9. 見出しは、次のとおりとする。
1. ○○○○○ (番号を付ける)
□ (1) △△△△△ (かっこの番号を付ける)
10. 原稿は、写真、図表等を含め、Word ファイルほかデジタル媒体での入稿とする。
11. 西南学院アーカイヴズに掲載された原稿の著作権は、西南学院史資料センターに帰属するものとする。ただし、執筆者本人による公衆送信権の行使を妨げるものではないが、その場合、事前に西南学院史資料センターに連絡しなければならない。

以上